

はじめるネット

2021年6月 通算第15号
(令和3年)

●葛城市議会議員

吉村 始
はじめ1968(昭和43)年1月1日、葛城市生まれ
新庄北小、新庄中、畝傍高、立命館大卒
図書館司書(公務員)、出版社勤務を経て、
2002年に出版社を創業。代表取締役
2017年から葛城市議会議員(1期目)
現在、厚生文教常任委員会副委員長
葛城市議会だより編集委員長

★本紙は、ご支援下さる方々と家族とで手配りしています。最新号やバックナンバーは、ウェブ版でご覧いただけます。

バックナンバーはこちら▶

<https://www.hajimerunet.com>

発行 吉村はじめと始める会

〒639-2101 奈良県葛城市疋田379 電話&FAX 0745-69-7590

第3の“感染症”を断ち切ろう

■ 強く、親切であれ

「Be strong, but be kind. (強く、でも親切であれ)」。ニュージーランドのアーダーン首相が国民に呼びかけた言葉です。アーダーン氏は、ドイツのメルケル首相や台湾の蔡 英文 総統などとともに、コロナ対策に成功した女性リーダーです。

医師の黒木登志夫氏は、著書『新型コロナの科学』(中公新書)で、女性リーダーの成功の理由は、「命あつての経済」と迷わず判断した高い知性とコミュニケーション力だと指摘されています。誰もがウイルスに感染する可能性があります。支え合って行こうという決意が、心に響きます。

■ 人権侵害を許さない

コロナウイルス感染症が拡大するなかで、葛城市内でも感染した人が誹謗中傷を受けかねない張り紙がされるといふ事象が起きました。

市は以前から人権政策課を中心に「ウイルスがもたらす第3の“感染症”は嫌悪・偏見・差別*」^{けんお}だとして、その啓発に努めてきました。この事象に対しても、速やかに張り紙を撤去して人権ポスターを掲示し、防災無線を使って啓発するなどの対応をしたということです。

葛城市には引き続き、第3の“感染症”を防ぐ取り組みを続けていただくことを望みます。

*第1の“感染症”は病気そのもの、第2の“感染症”は不安と恐れ、第3の感染症は嫌悪・偏見・差別
日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう! ~負のスパイラルを断ち切るために~」より

日本赤十字社
のサイトへ
感染症対策本部

3月議会 一般質問

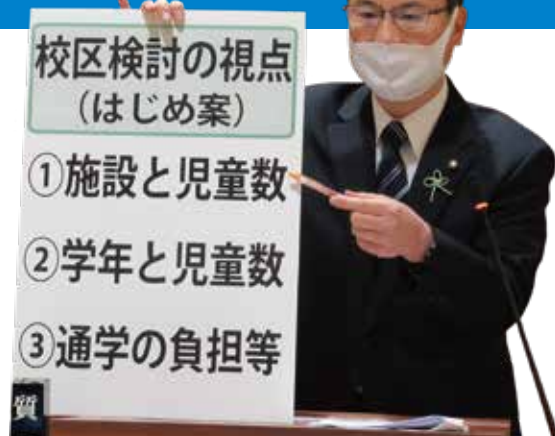


←動画はこちら

よりよい教育環境実現のため！ 「特色？ 格差？」校区を話し合う場を

よりよい教育環境実現のため、2019年に引き続き、小学校の校区割について質問しました。

校区検討の3つの視点のうち、①と②とを取り上げました。各小学校の教育環境には差があるのが現状です。前教育長は「不均衡や不平等ではなく、学校の特色」との見解でしたが、私は「みんな葛城市の子どもたち。分け隔てなく充実した環境で学ばせてあげたい」と考えます。そのために、い



ろんな立場の人たちが、自由に意見を出し合う場の設置が必要だと訴えました。阿古市長も「校区は必ずしも固定されたものではない」と、行政の予算を配分する立場として答弁しました。

	全校児童数 (2020年度)	児童の増減 (2018年度比)	運動場の広さ	理科教室
當麻小	267人	↓19人	7,583 m ²	1室
磐城小	719人	↑14人	7,275 m ²	1室
新庄北小	260人	↓18人	8,419 m ²	1室
新庄小	820人	↑9人	6,012 m ²	2室
忍海小	302人	↓14人	11,100 m ²	1室

はじめ議員
の考え



市の予測では、磐城小は2024年度に通常学級が二つ増える見込みで、一つの理科教室で十分なのか心配です。新庄小は運動場が狭く、運動会るときは保護者席が大混雑です。反対に新庄北小は、来年度と2025年度に1学年1クラスの状態で発生します。これらの問題解消に、校区割の変更も一つの方策と考えます。

コロナ禍で困っている 市民への生活支援を

昨年12月のDVや児童虐待への取り組みの一般質問に続き、今回は、生活困窮者^{こんきゅう}への市のしっかりとした支援と周知とを要望しました。

生活保護についても「申請権を妨げない対応と迅速な要否判定」をするとの回答を得ました。

困っている人の相談にあたるケースワーカーは、重要な役割を担っておられます。「増員などの改善が必要ではないか」と質^{ただ}したところ、阿古市長は「職員の心の健康にも留意^{りゆうい}しつつ負担軽減につなげたい」と応じました。

當麻庁舎の危険性排除に伴う 機能再編に関する特別委員会

5月21日、長い長い名前の委員会が開かれ、私も委員として参加しました。老朽化（築53年）による當麻庁舎の取り壊しと、今年度中の引越を目指して話し合いました。

市では、當麻庁舎の市民サービスの強化と利便性向上のために総合窓口課（仮）の設置とデジタル化の推進を検討しています。私も他市に見学に行くなど、市民が使いやすい市役所にしたいと、はりきって研究中です。